BMW116i

PHOTO／市　健治　REPORT／大野雅史（本誌）
協力／スタディ横浜☎045・476・3181

Vol.3

別のクルマと思えるほどの進化を遂げたE87／116i。リヤに“116i”のエンブレムもないだけに、外観から受ける印象はとてもじゃないがBMWラインナップの最廉価モデルに見えない。もちろんそれが狙いでもあるのだが……。前回に引き続きモディファイのポイントをレポートしていこう。

スポーティさが抜群にアップ！見た目以上に満足度も高い116i

Mスポーツのバンパーと合わせて3Dデザインのリップスポイラーを装着。実用性を犠牲にすることなく、見た目のスポーツ度を格段にアップしている

フロントにはブレンボのブレーキ・システムを装着。絶対的なパワーだけを考えればオーバークオリティなのだろうが、止まると言うことに対する絶対的な安心感は、他の何物にも代え難いチューニング。見た目にもスポーティ度がアップすることは言うまでもない

前後ともにMスポーツ性のバンパーを装着。パッケージオプションとして用意されるアイテムだけに、マッチングも完璧。納車時と比べるとまさに別のクルマ

アーキュレーからリリースされるWテールを装着。ステンレス製リヤマフラーから排出されるエグゾーストサウンドは、JASMA認定品だけに控えめなボリュームながら、エンジンの回転上昇にともなって心地良いスポーツサウンドを実現する

インテリアの雰囲気を明るく演出しているのがカロ・マットの存在。ホワイト×ブラックのシザルが、カジュアルな雰囲気を醸し出している。アクセルやブレーキ、そしてフットレストにはACシュニッツァーのペダル・セットを装着している

前回のレポートで見た目も中身も大きく様変わりしたE87／116iをお披露目したが、今回も引き続きE87のモディファイポイントを中心に、そのインプレッションも含めてレポートしていくことにしよう。

外観上で大きな変化を見せているのは、Mスポーツ仕様の前後バンパーと、3Dデザインからリリースされたフロントのリップスポイラー。全くのノーマル状態であった116iをそれこそ別のクルマへと変身させている。

Mスポーツ仕様の前後バンパーは、116iでもパッケージオプションとして用意されているアイテム。それだけにそのマッチングに関しては問題はなく（ノーマルバンパーの取り付けと若干ながら異なっているので、それなりに加工する部分はあるが……）、見た目に大きな変化を実現している。さらにMスポーツ仕様のデザインを崩すことなく、更なる個性を完成させるのが3Dデザインのリップスポイラーだ。単体で見ると決して派手なデザインではないのだが、車両に装着して見ると、Mスポーツのバンパーとの相乗効果でこれまで以上にスタイリッシュに、そしてよりスポーティなシルエットに変身を遂げている。

KWバージョン3を組み込み、ノーマルに対して前後ともに約30㎜ローダウンしているのだが、リップスポイラーと路面のクリアランスは充分に実用の範囲内。街中の走行はもちろん、例えばコンビニやファミリーレストランなどの駐車場へのアプローチでも気を遣うことはない。実用性を犠牲にしない範囲内で、スポーティ度をアップさせるデザイン・センスは、3Dデザインならではとも言えるだろう。

フロントに装着したブレンボ製ブレーキ・キットも外観上のポイント。116iの動力性能を考えれば、ブレンボはオーバークオリティと思われるだろうが、スポーツ走行時のコントロール性はもちろん、ブレンボ装着による絶対的な安心感は他に代え難いチューニングポイントでもあるのだ。またオーバル形状のデュアルとなるアーキュレーのリヤマフラーは、Mスポーツのバンパーとのマッチングも良く、適度なボリュームで心地良いスポーツサウンドを響かせる。

インテリアに目を移すと、116iには贅沢とも思えるモディファイが施されている。注目はレカロのSR-11。背中全体を包み込んでくれるその形状は、スポーツ走行ばかりでなく、街中から長距離の移動に至るまで、快適なドライビング空間を提供してくれる。

ステアリングの後方に見えるのがアルダックスからリリースされたパドルシフト。右側がシフトアップ、左側がシフトダウン。高速走行時などステアリングから手を離さずにシフトできるので便利なアイテムだ

インテリアのハイライトとも言えるのがレカロのSR-11。身体全体を包み込んでくれるような形状で、ホールド性も文句なし。街中から高速走行、長距離の移動に至るまで、これまで以上に快適なドライブを楽しむことが出来る